昭和58年
10月1日
第213号
発行所　津奈木町役場
編　集　企　画　課
印刷所　水俣旭印刷所

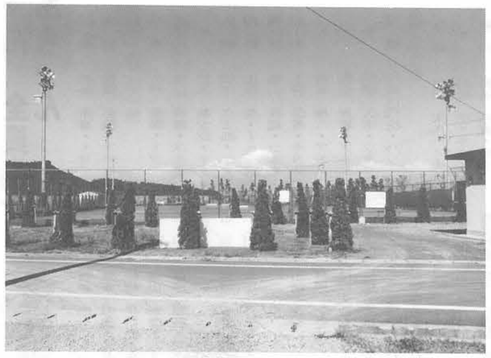
町報 つなぎ

人口と世帯
（9月1日現在）

人　口	6,248	（＋7）
男	2,978	（＋8）
女	3,270	（－1）
世　帯	1,718	（　0　）

（　）内は前月との比較

自治宝くじ助成
テニスコート照明施設完成
楽しむファミリースポーツに


▲照明灯完備のテニスコート（9月30日点灯式、10月1日より一般開放）

年々施設を充実してきている総合運動公園に新たな施設が備った。今年はテニスコートの照明施設である。スポーツを通じた健康づくり、人づくりを目指す本町にまた一つ、楽しみがふえた。

照明施設は自治宝くじ助成、過疎債などによって、出来上がったものである。

野外で手軽に出来るナイタースポーツにテニスの照明を二基、自治宝くじ還元資金の助成を希望していたものが五月に決定。同時に過疎債などでも二基、こうして、全コートを照明できる四基が幸運にも完備できた。

尚、自治宝くじ助成は五十六年にも、二〇〇万円で伝統のせり舟、三艇建造に次くもので、財政の苦しい台所にありがたい。また、二度も続けて宝くじの恩恵を受けるのも珍らしいことである。

色んなスポーツの中で最近、婦人や若者に人気を増しているテニスである。しかし、私達の田舎で普及するにはどうしても昼間は職種の関係で、平日はもちろん、日曜、祭日でも難かしい面がある。

事実、現は町内の利用者より他町の利用者が多かった。

また、テニス愛好者は夜間、小学校体育館で週二日練習していた。

今度の照明施設を機会にテニスも家族、青少年、婦人など、ファミリースポーツ、また新しいコミュニティの場として、活用、定着することを期待したい。

◎事業概要は次のとおり

◦総事業費　六、二四二千円
自治宝くじ一、〇〇〇千円
過疎債など四、二四二千円
◦事業量
照明灯　四基（四コート）
内　自治宝くじ助成二基
面　積　一六五〇㎡
◦工事期間
着工　七月十九日
完工　八月三十一日
◎テニスコートの使用料

単位	使用料 一時間	照明加算 一時間
一人	五〇円	—
二面	—	五〇〇円

林業視察

収入役　西川　裕

新庁舎用備品の視察をする為、上京の機会があったので関東地方有名林業地視察を町長と私で試みる事になった。

全国有名林業地は数多く存在するが、東京近郊では、日光林業・西川林業・青梅林業が特に有名である。

日光林業地は、鹿沼土で有名な鹿沼市を中心に、日光市、今市市、栗野町から成り、人口林率七三パーセント。民有林面積約五万ヘクタール、平均気温十三・五度、（津奈木町十六・九度）年間降水量、五〇〇～二、〇〇〇ミリ、（津奈木町二、四〇〇ミリ）という状況にある。戦前は（ヘクタール当り二千本前後の疎植）大径材生産が中心であったが、昭和三十年以後一ヘクタール当り三千九百本前後となり、**除伐・枝打ち**を入念に行い、優良材生産地として変貌つつある。今回は特に日光市東川地区の、福田林光氏（昭和三十七年第一回農業祭・天皇杯受賞者）に自賞の山林を見せてもらいながら、色々とお話をお聞きする機会を得た。福田氏は経営面積一六〇ヘクタールで、多年にわたる林業育種と**高密林道**の開設で集約育林を行っておられる。福田氏によると「これからの林業は、高密度・林道・作業道がなければ価値が保もてない。大径木を育てるには、土壌（山床）の管理が重要である。土壌管理には除伐、間伐を行ない、五十～六十年生の山でも下木（雑木）を切り、山床に草を生やす事が大切である」と言われ、日頃の六年町長の指導技術と合致し、意を強くした。もうひとつの特徴は**森林組合**の利用活動である。植栽・下払い・枝打ち・木材販売と山林所有者より委託を受けて、一貫生産方式を採っている事であった。この日の目的は灌水林業視察であったが、福田氏より現在日光地方では行なわれていない優良材生産地として、栽培・管理・販売・山林所有者の